



20220810 鷲羽岳を背景に2年生全員

会長あいさつ

高林 宏 (25回)



今年の夏合宿は北アルプス薬師岳から雲の平とのこと。現役部員にとっては思いで深い経験になったと思います。

特に1年生にとっては今後の登山を印象付ける登山となったのではないのでしょうか。

私の場合も1年生の夏合宿は北アルプス笠ヶ岳から槍ヶ岳で、笠新道から杓子平に登って見たハイマツと雪渓、青空のコントラストが素晴らしく、いまだ鮮明に記憶に残っています。

さて、今年は5人の山岳部OBが合宿に同行してもらえたとのこと。生徒たちも心強かったでしょうし、顧問の先生、父兄も安心されたことと思います。

北登会の活動としては現役の部活動に対して登山用具や山行への同行など支援しています。今後も現役の活動を支援してまいりますので、引き続き会へのご協力をよろしくお願い致します。

北登会ホームページアドレス

北高山岳部活動状況

浜松北高等学校山岳部

顧問 佐々木 努



北登会の皆様、いつも手厚い支援をいただき有難うございます。

私は顧問5年目で、今年が定年の年になります。夏山でもすれ違う登山者から驚かれることが多かったのですが、

30人近い高校生が、山岳部として雲の平や高天原のような北アルプスでも秘境といってもよいところにやって来られることに浜松北高校の生徒の変わらぬ気質と伝統を見る思いがします。鈴木克巳副会長からいただいた差し入れには熱中症防止のための細やかな気遣いを感じました。おかげで無事に夏山合宿を終えることができました。

インターハイに出場のような華々しい報告は今年もできませんが、部員同士が助け合って登山活動を成功させ、自然と親しむという私が大切にする目標は実現できるようになってきていると思います。

そして卒業後も登山を続ける生徒が一人でも多く育ってくれることが私の喜びです。

北高山岳部が安心して活動できますように、これからもご支援のほどよろしくお願いします。

<http://www.hokutokai.sakura.ne.jp/>

【2021 年度活動報告】

高校総体県大会 5/29（コロナ禍のため1日で実施）
愛鷹山系（桃沢野外活動センター～池の平往復）
男子10位（参加校16校） 女子8位（参加10校）

【2022 年度活動報告】

高校総体県大会 5/28-29 湖西連山
男子8位（参加校16校） 女子6位（参加校12校）
女子は3年生の4人でチームを組み健闘した。

○新入部員の状況

令和4年度は男子7人、女子3人の10人が入部した。
入部時のセレクションは3年ぶりに行わなかった。

○夏山合宿報告及び生徒の感想

8/7から8/11までの4泊5日で北アルプスの夏山合宿を実施した。その概要を報告する。

8/7（日）天気は晴れ 8:00 浜松北高出発＝（貸切バス）＝15:30 折立 テント設営、炊事、夕食、消灯 20:00 折立キャンプ場は予約不要で無料である。炊事場とトイレがある。私たちの12張り以外は1張りのみだった。天気図が書けたのはここだけであった。また蝸にかまれた。このかゆみは下山後まで続いた。

8/8（月）天気は晴れ 3:30 起床 5:00 折立出発 10:30 太郎平小屋—11:00 太郎平キャンプ場 設営後 11:30 から薬師岳登山隊出発（佐々木と1年生の1人はテントキーパー）。14:00 までに山頂につかない場合は引き返すこととした。全員が山頂に達し、16:30 に下山した。（サブザック行動）

炊事、夕食、ミーティング、消灯 20:00

8/9（火）天気は晴れ 3:30 起床 4:30 出発—5:00 太郎平小屋（朝食）5:30—8:00 薬師沢小屋 8:30—13:00 雲ノ平山荘 14:00—17:00 高天原小屋 夕食、入浴、ミーティング、消灯 20:00。

予定より2時間遅れで高天原小屋についた。27人の高校生パーティを行動させるのは本当に大変である。歩行がおぼつかない生徒の荷物は分散させるなど手は尽くすが、歩みが遅いのはどうしようもない。薬師沢小屋や雲ノ平山荘で時間がかかったのはA隊とB隊と合流のためである。天候とOBに助けられた面がある。小屋の主人が心配しているというので、高天原小屋にはトラバース地点から佐々木が先行し、16:15 に到着した。小屋では、高校生の団体を心から歓迎してくれ、また1人当たり2千円値引いてくれた。歩行と体力については反省点が多い。

8/10（水）天気は曇り一時雨。4:30 起床 5:00～6:00 朝食（2隊に別れて食事）、朝食後入浴タイム。8:00 出発—12:00 岩苔乗越 12:30—黒部源流を経て—14:00 三俣山荘 14:30—15:30 三俣蓮華岳 15:40—中道ルート—17:30 双六キャンプ場 設営、炊事、夕食、部長・副部長ミーティング、消灯 20:30 昨日の到着が遅くなり、入浴タイムを設けた時点で鷲羽岳の登頂は諦めた。

高天原温泉に入るのが今回の山行の目的の一つなので、このようなタイムテーブルにした。温泉は期待に込めてくれるものだった。



それにしても少しの遅れが積み重なり、予定通り行動できない。また驚くことにみんな忍耐強く歩いてくれる。

1年生にとっても2年生にとっても大変な山行だが、少しずつの成長を待ちたい。

8/11（木）天気は雨、標高を下げると晴であった。3:30 起床 5:00 出発—6:30 弓折岳分岐—8:00 シシウドが原—11:00 わさび平小屋 11:30—12:30 新穂高温泉 13:00＝（貸切バス）＝24:00（途中、入浴・食事で2時間。事故渋滞のため4時間以上タイムロス）

夜半から雨になった。気圧の谷にあって好天は望めそうにない。ただし、前日の幹部ミーティングのできる限りスムーズに行動できるよう対策を考え実施した。シシウドが原からの下りは多くの登山客とのすれ違いで時間がかかった。ともかくも無事下山した。

OBの野口によると昨年の白馬朝日岳が40km弱の行動。今回は70kmに及ぶかもしれないということだった。みんなよく歩いた。（顧問 佐々木）

北高山岳部 2022 年度活動予定

3/27-28	湖西連峰	1～2年生
4/16-17	県一次予選（千葉山）	2～3年生
4/23	4月月例山行（明神山）	1～3年生
5/4-5	新人歓迎登山（秋葉山）	1～3年生
5/14	校外練習（湖西連峰）	選手
5/21	校外練習（湖西連峰）	選手
5/28-29	県二次予選（湖西連峰）	選手
6/11-12	6月月例山行（宇連山）	1～2年生
6/17-19	東海総体（愛知県明神山）	選手
7/9	7月月例山行（富士山）	1～2年生
7/22-23	歩荷訓練（宇連山）	1～2年生
8/7-11	夏山合宿（北ア薬師岳）	1～2年生
8/26	8月月例山行 沢登り 太田川源流	1～2年生
9/18-19	9月月例山行 仙丈ヶ岳または八ヶ岳	1～2年生
9/23	クライミングコンテスト	選手
10/1-2	校外練習（湖西連峰） 幕営植生	1年生
10/29-30	新人大会（東部地区）	1～2年生
11/3	クライミングコンテスト	選手
11/12-13	競技力向上大会（竜爪山）	選手
12/10	歩荷大会（湖西連峰）	1～2年生
12/23-26	スキー合宿（長野県戸狩温泉）	希望者
1/13-15	スキー合宿予備日	希望者
2/4	2月月例山行（三河地区）	1～2年生
3/21	クライミングコンテスト	選手
3/28-29	下見登山（竜爪山）	1～2年生

※12/10の湖西連峰は北登会がサポート参加します。
北高山岳部が競技力向上のため、歩荷競走で入山します。
梅田峠から多米峠を往復します。
各チェックポイントで保安要員を担当します。

夏山合宿を終えて



【分銅 亜花音】（2年総括部長） 薬師岳を背景に

4泊5日の夏山合宿、あっという間で、でもとても濃密な時間となった。上級生、加えて部員をまとめる立場になり、不安が大きかった。それは合宿前に行った山で体調を崩してしまった為だ。しかし、過去一番大変になるであろう今回はそんなことも言ってもらえない。すごく、怖かった。

2年生にとって、2回目となる夏山合宿。今回行ったコースは去年とまるで違って、新しい感動があった。青々とし、どこか鬱蒼とした景色は素晴らしいものだった。不安の中はじまったが歩き始めると想像以上に周りを見る余裕ができた。振り返ってみると、それは地道な努力の賜物だと思う。山岳部の主な練習である歩荷訓練。重い荷物を背負って学校の階段を何往復もする。他の部活の人からしたら、不思議でしょうがない練習だろう。でもその地味でもひたむきに頑張った結果として、夏山という大きな舞台で成果がでたのだと思う。

とはいえ、みんなが無事に合宿を終えることができたのは、多くの仲間の支えがあってこそだ。先輩の話の中に、「集団には表のリーダーと裏のリーダーがいる」というものがあつた。歩行中は、前者は歩くペースや休憩の配分などを考え、後者が後ろから隊全体を見、より良い歩行になるため、自分から仕事を探し行動する。合宿前の私は、「表のリーダー」ばかりにとらわれていた。それ故、「自分だけが頑張れば良い」と僅かながら思っていただろう。でも先輩の話や、1日1日様々な問題に直面した際に、色々な人の、それぞれが持つ人柄や得意なことが混ざり合う感覚を覚えた。華を持つ存在、我が強い人を中和させる存在、それら全てがお互いの穴を埋めて一つの丸を作るような感覚があつたのだ。これらのことは過酷な環境だからこそ気づけただろう。このような成長の機会を設けて下さった北登会・先生方、山行中に何度もサポートして下さい下さったOBの方々、不安ながらも信じて待っていてくれた家族に感謝です。部員の仲間も含めたくさんの愛溢れる合宿だった。本当にありがとうございました。



【佐治 由洋】（2年男子部長）

今回の夏山は、自分にとって、そして山岳部の仲間にとって初めての4泊5日という、経験したことのない長期の山行でした。そのため、山行の前には緊張と興奮の気持ちであふれていました。そして迎えた夏山では、さまざまな発見がありました。

まず、今回行った北アルプスの奥地を見てみて、自分の知らない世界を体験し、世界の大きさを実感しました。このようなことは、去年もありましたが、今年、見たことのない植物、涼しい風、温かい人たちとふれあい、改めて実感することができました。

そして、先輩の偉大さを目の当たりにしました。今回、同行してくれた5人のOBの先輩方は、常に僕たちのことを支えてくださり、感謝しかありません。そのうえで、自分たちは先輩たちと比べ、まだまだ未熟であるということを感じさせられました。僕は山岳部二年の男子であり、さらにその部長という立場で、途中で体力面や体調面などにおいてつらいと思った子をサポートすべきでした。僕は、周りを見る努力をしたものの、その実態に気づいてあげることができませんでした。そのとき、OBの先輩方は、その子たちのサポートをして、さらには僕たちまでもが励まされ、山での経験値の違いを思い知らされました。

また、僕たちはまだまだ成長していかななくてはならないということもわかりました。高齢者の山行に合わせてある地図上のコースタイムと比べ、僕たちの山行は同じくらいか、少し遅いくらいでした。若い僕たちはそれよりも速いくらいでなくてはならなかったのです。

僕たちは練習不足、山での経験不足、さまざまな問題を目の当たりにし、これからはよりいっそう努力が必要であると実感しました。単純に練習の量を増やすだけでなく、読図や、声掛けなど広い分野にわたる練習をしていきたいです。

今回さまざまな体験をし、楽しかったこと、よかったこと、つらかったこと、修正すべきこと、さまざまな発見がありましたが、どれも自分たちにとっては貴重な経験です。今回の山行を通じて学んだことは、今後日々の練習や山行において活用していこうと思います。

最後に、山行に協力して下さい下さった、先生方、OBの皆様、保護者の皆様、そして何より山岳部員のみんな、本当にありがとうございました。



写真上 高天原山荘にて全員集合

写真左 薬師岳を背景に

【柴 聡一郎】（2年男子副部長）

5日間（6日目に突入したが笑）という長い夏山合宿が幕を閉じた。いや、準備から数えれば1ヶ月以上であったろうか。今年の合宿が我々2年生にとって去年と明白に異なるのは、行先や日数の違いなどは差し置いて、なにより「2年生として」行くことである。思い返してみれば1年前、1年生として参加していた自分達はどうかだったろうか。そして、自分はどうかだったろうか。周りに気を遣ったり、荷物をもってあげたり、ましてやダブルザック（笑）などはできていたものではない。せいぜい自分のことで精一杯だった人がほとんどだったはずだ。それが今では、今年の合宿となつては、どうだろう。まあ言うまでもなく、と言ったところだろう。それだけの変化を自分達は、そして自分は、したわけであり、今回の合宿で1番にそのことを身に染みて感じた。そしてそれと同時に心に残っているのは、「山岳部」というまとまりとして参加しているのと言うまでもないことであるが、一個人としても山に来ているということである。部として皆で来ている以上は、お互い助け合ったり気を遣いあったりするのには至極当然のことであり、それをなくして部活動とは言えないし、それがあからこの成長だったり変化だったり個々人ないしは全体として生じる。ただ、なにより私たちは山を楽しみに来ている。それぞれで部活の志望動機は多少異なるにしても、少なくとも誰もが山そのものを、登山を楽しむためにこの部活に所属しているはずだ。畢竟、その目的を蔑ろにしてまで、自分を犠牲にし過ぎたり、周囲を気にしすぎたりするのは必ずしも肯定できないと私は考える。そのバランスのとり方がそれぞれで異なることが、良くも悪くも今回の反省と言えよう。ただそれは「後悔」ではなくあくまで「反省」である。前者は過去を変えようとするものであるのに対して、後者は未来を変えようとするものであるからだ。

【衛藤 菜々子】（2年女子副部長）

去年の夏山合宿で、私は山の厳しさと自分の甘さを思い知った。このままではいけないと思い、一年間、自分のことは当たり前のようにし、常に他の人や全体に気を配る余裕を持てるように練習を重ねてきた。歩荷はいつも少し重めに設定し、みんなと練習できない日があっても、重さやスピードを調整したり自主練をしたりして負荷が劣らないようにした。

前日までの準備で足りなかったと思うのは読図技術だ。時間をかければ読み取れるようになってきたけれど、それでは行動中に隊のペースを崩してしまう。OBの先輩や他の読図のメンバーを見ても、行動中のわずかな時間に位置を特定できていて、普段の山行からの積み重ねなのだと感じた。地図を正確に読むことは、休憩の間隔や場所を決めたり、ペース配分をしたりするためにも必要だと思う。

夏山の5日間で良かった点は、みんなが少しでも楽に歩くためにできることは何か、常に考えられたことだ。周りの人の様子に注意しつつ、隊全体の雰囲気を明るく保つため声をかけることもした。私が声を出したとき応えてくれたり、前向きな声をかけてくれたりしたときは

すごく嬉しかった。また、前を歩いているOBの先輩を凝視して吸収できることを探した。

難しかったことは、休憩のタイミングやカップの脱ぎ着などの指示を出すことだ。みんなの考えと違うかもしれないと思うと素早く指示を出せず、曖昧になってしまいうことがあった。指示の出しやすさも含め、みんながもっと歩きやすい環境を作るには隊の中での雰囲気共有が鍵になると思う。

山では1人では絶対にやっていけない。だからこそ山岳部の仲間は私にとって家族のような存在だ。意見も思いも本気で言えて、弱みも見せ合えて、自然体でいられる。こんな最高の仲間はなかなかできないと思う。みんなと行ける山行はもうそこまで多くない。一つ一つ面白い、さらに仲を深めていきたいと思う。

【森口 怜緒菜】（1年女子）

私は今回の夏山合宿で体力や知識、技術が圧倒的に不足していることを思い知らされました。

まず4日間の山行のうち二日間は荷物を運ぶのを手伝っていただくことになり、とてもありがたかったと共に、自分の体力のなさを実感しました。特に3日目は全身が痛くなって辛かったですが、それはパッキングなど他の要因もあるのではないかと思うので、改善できるところを見つけ、次回からの山行に生かしていきたいです。

また全体的に言えることとして筋肉の疲労だけでなく、今まで感じたことのないような関節の痛みが多く感じられたため、トレーニングに励みつつストレッチや歩行技術なども意識していきたいです。

私は気象班と植生班に属しています。今回は気象通報を聞く機会が一回しかありませんでしたが、天気図の書き方を先輩方がやっているのを見て理解することができました。天気図を描くのは家でも練習できると思うので、回数をこなして慣れていきたいです。また、山は天気が変わりやすく、今回は雨が降ったり止んだりすることがあったので、天気図だけでなく雲の種類から天気を予想する技術もあるといいのではないかと考えました。

植生は、自分が担当して調べた植物について完璧に覚えられていない部分があったこと、たくさん生えていた植物でもわからないものが多かったこと、調べるのが花に偏ってしまったこと、植生の記録をあまり取ることができなかったことなどが反省点として挙げられます。

自分の班の役割を果たして部に貢献できるようにしたいです。さらに言えば、ミーティングで言われた通り、自分で読図もできるようにしたいと思います。地形図を見て、なんとなくはわかったものの、細かいところを見逃したり、川などの目印がないところでは現在地を特定できなかったりしました。読図ができれば体力の配分ができ精神的に楽になると思うので、技術を向上させていきたいと感じました。

辛いことが多かったですが、楽しかった思い出もあり、何より学ぶことが多く濃い5日間でした。自分に足りないところを再認識することができ、ほんの少しかもしれないですが成長することができたと思います。弱点を克服し次回へのさらなる成長へ繋げていきたいです。



やっと見えた槍・穂高

【石川 大智】（1年男子）

長い5日間でした。後半の2日はほぼ足に任せて歩いていて、自分の体力不足を実感しました。しかし、自分に足りないものと同じくらい、自分の成長を実感することができました。

僕たちは、（現時点では）山岳部とはどのようなものであるかを先輩たちから知ることしかできません。そんな中で、OBの方々から知識を教わることができてとても良い経験になりました。他校と関わる機会が少ないため、閉鎖されたコミュニティの中の狭い視野でしか山岳部という部活を見れていなかった僕にとって、OBの皆さんの指摘はその視野を広げるきっかけになりました。これから僕たちがこの部活を背負っていくことになる時も、視野を狭くすることなく、広い視野で活動を考えていきたいと思いました。

夏山合宿を通して、コミュニケーションの輪を広げることもできました。僕は中学の頃に上下関係の厳しい部活に所属しており、各学年間で壁のようなものを感じていました。そう言った経緯により、僕は部活に入りたての頃先輩とどのように関わればいいのか分からず、試行錯誤していました。実際に一年の男子とばかりいて、他の人とはあまり関わりがありませんでした。でも、団体行動の山行中において、それだといけないと思い、夏山合宿中にはさまざまな人とコミュニケーションを取ることを意識するようにしました。結果、沢山の人の理解を深めることができ、団結力を高めることができました。

これからのことについて、もう少し実際の山行に近い練習を重ねるべきであると思いました。僕が考えたのはソールの固い登山靴で歩荷をした方が良いのではないかということです。夏山後半になるにつれ、足裏の痛みが増していき辛かったので、普段の練習から山での状況に近づけて、少しでも山の環境に適応しやすいようにしたいと思いました。今はまだ分からないことがとても多いけれど、先生や先輩方からさまざまなことを教わって、成長することができれば良いなと思いました。



サポート参加の73回生5名

【竹林 修世】（OBサポート隊代表 写真最前列左）

まだまだ力不足を感じた夏山合宿であった。体力、知識、判断力等すべてにおいて、さらに鍛錬を積んでいかなければならないと感じた。夏山合宿前に「この人が後ろについていれば安心だ」と思われるような先輩になれるようにと考えていた。知識や判断力は経験を積みなければ身につかない部分があると思うが、体力に関しては一定のレベルまで持っていけるはずである。合宿前に長距離走や歩荷に加え、何度か山に足を運んだが必要な体力レベルにはまだまだ及ばなかった。合宿を完遂し余裕をもって部員の補助をするだけの体力はついていたが、もっと体力がついていればより手厚い補助や広い視野でのアドバイスを送ることができたはずである。体力面に関しては努力不足としか言いようがない。より一層の鍛錬していきたい。また、体力面での自分の限界を知りたいと感じた。下界で動けなくなるまで訓練を積むことで、山で自分がどこまで無理をしてもよいのか判断できるようになると思う。この点は、後輩にも自身の限界を知るという点で、下界で一度動けなくなるまで訓練を行ってほしいと思う。

知識や判断力に関しては、まだまだ自分の経験不足や学習不足を感じた。けが人が出たときの対処法や、状況にあった山中行動など、わからないことや判断に迷うことばかりであった。特に医療知識は、メンバーや自分に不測の事態が起こった時のために着けておくべきであった。生命に直ちに直結するような状況はなかったものの、知識の有無で回復の時間を早めたり他のメンバーの負担を減らしたりすることができたはずである。判断に関しては、特に天候の判断や工程を予定通りに遂行すべきであるのか判断について、まだまだ判断力が不足していると感じた。正しい知識の上に判断力を身に付けられるようにしていきたい。

後輩に対しては、隊全体としての練度を高めるような訓練を積んでもらいたいということを伝えたい。全体の体力、技能水準を一定まで上げることで、初めて順調な山行を行うことができると考える。部活として隊行動をとっている限りは脱落者を出すべきではない。我々が部員だった時はこのことは上手くいかなかった。学年の壁がほとんどないであろう後輩たちには、ぜひ実現してもらいたい。そのうえで、それぞれの役割を認識して鍛錬してもらいたい。

行事報告

「C33-2 山行」 大川入山(1908m) 2021.10.24

長野県下伊那郡阿智村浪合治部坂高原スキー場から大川入山を目指しました。山頂直下はクマザサに覆われた稜線で気持ちの良い山行でした。下りが長く膝が笑ってしまいました。

参加者 10 名：高林(25)、山口 (26)、山本 (28)、鈴木 (36)、日帰り山崎(17)、鈴木貴(48)、岩倉 (48) 親子、野本夫妻 (ゲスト)



山頂直下のクマザサの尾根は気持ちよかったです



大川入山山頂にて

「C33-3 山行」 湖西連峰 2021.12.4 (土)

梅田親水公園から神石山まで登り、山頂でランチ。鈴木貴晴君の計らいでスープにおでんが振舞われました。本隊は普門寺によって紅葉祭りを楽しんできたようです。



健脚組 2 名は中尾根パラダイスビュー大岩を回って、梅田方面に戻り、歩いて新所原駅へ、途中コンビニで祝杯を挙げ、浜松駅中で立ち飲みして労いました。大人 10 名、子供 10 名の 20 名参加



「C34-1 山行」 御在所岳(1212m) 2022.5.15 (日)

北登会で意外に登ったことが無かった御在所岳。巨岩と絶景を楽しみ、帰路はロープウェイでらくちんでした。

前日は伊勢神宮、関宿を大人の遠足、夜は鈴鹿市内のビジネスホテルに泊まり居酒屋で飲みすぎ、翌日は最初の 2 ピッチほどは変な汗をかきました。

参加者 4 名：高林(25) 夫妻、山本 (28)、鈴木 (36)



「家族園遊会」 2022.6.4 (土) 須山建設海の家

初めての初夏開催。熱くなく寒くなく虫も少なく、木登り、アサリ採り、釣り、火遊びにナイフ工作と子供たち。カナディアンカヌーも持ち込み浜名湖を漕いでみました。夜は昭和少年のショータイムで盛り上がり！

参加者 大人 11 名 子供 7 名 (うち宿泊 8 名)

「家族園遊会」 2021.11.6 (土) 須山建設海の家

初めてのシーサイド会場で快適でした。木登り、テント張、火遊び、ドッジボール大会など子供たちは忙しい週末でした。大人はまったりお酒、BBQ、焚き火！

参加者 大人 19 名 子供 9 名 (宿泊 21 名)



行事案内

【C34-2 山行】 北ハケ岳縞枯山(2403m)

麦草峠(2120m)から茶臼山(2384m)、縞枯山を目指します。雨池を回って麦草峠に戻ります。

コースタイム 5:30 程度

天気が良くなかったら白駒池散策+アルファ

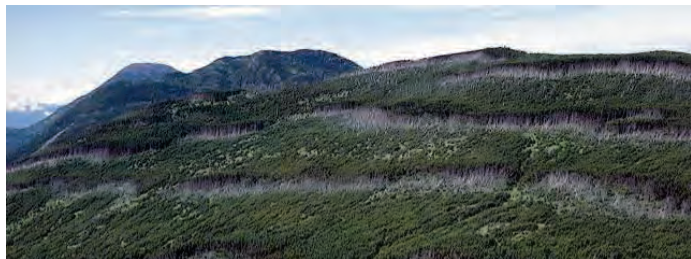
日程: 2022. 10. 16(日)

※希望者は前日天狗岳に登り、高見石小屋泊

会費: 交通費は車ごとに実費精算、小屋宿泊費 1 万円程度

集合: 適宜調整し自家用車乗合で行きます

- ① 前日 5:00 または前々日夜行 集合場所要調整
- ② 当日 5:00 スヤマビルドサービス (西区西山町 1830-2)
- ③ 当日現地 8:00 麦草峠駐車場



【忘年会キャンプ】 ※差入大歓迎です！！

日程: 2022. 11. 5 (土) 12:00～

会場: 須山建設海の家 (北区三ヶ日町都筑 926)
佐久米海岸沿い

会費: 無料

交通: 天浜線東都筑駅下車 800m 15 分

※北登会で乾杯用ビールなどと恒例の大鍋豚汁を用意
※カセットコンロ 3 台と焼き肉用鉄板等を用意します
各自食材飲物持ち寄り、必要に応じてコンロ等持参
※希望者は宿泊可能です。風呂も使えます。

(布団代 1000 円/組) テント (1000 円/張)



【C34-3 山行】 湖西連峰

日程: 2022. 12. 3 (土) 9:30 梅田浸水公園 P

※天気が良ければ、浜名湖越の富士山が拝めます。

※友人家族参加大歓迎

※神石山で温かいスープを用意します！

※ハイク&乗鉄、呑鉄したい方は JR 新所原駅に 8:30

集合。天浜線でのアクセスも楽しいですよ！

【現役サポート】 湖西連峰

日程: 2022. 12. 10(土)

集合: 例年 8:30 頃 梅田公園

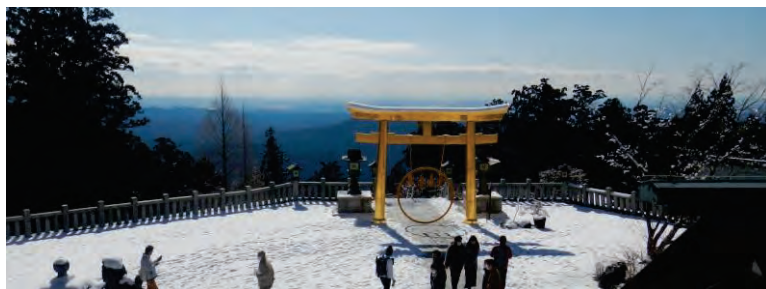
北高山岳部が競技力向上のため、歩荷競走で入山します。梅田峠から多米峠を往復しますので各チェックポイントで保安要員担当します。協力をお願いします。

【C34-4 山行】 秋葉山初詣

日程: 2023. 1. 3 (火) 9:00 下社前駐車場集合

※天気が良ければ、富士山、遠州灘が見えます

状況によっては雪が残っています。写真は 2/11 の上社



交流イベント

※興味のある方は鈴木克巳までご連絡ください

【信越トレイル】

日程: 2022. 10. 28 (金) 夜行 29 (土) 登山 30 (日) 帰着

会場: 長野県飯山市戸狩温泉スキー場ヴィラミヤモト泊

会費: 交通費車単位清算、宿泊費 1.5 泊 1,200 円程度

集合: ①スヤマビルド 28 (金) 18:00 頃

②現地宿泊先 29 (土) 8:00 までに

【スノーシュー体験】 愛知県茶臼山高原または天狗棚

① 2023. 2. 11 (土) 天狗棚または茶臼山高原

② 2023. 2. 23 (祝) 茶臼山高原またはきららの森

集合: 8:00 サンスト浜北駐車場 (コスモ石油東側)



※新型コロナ感染状況によっては、中止または延期にすることがあります。最新情報は HP、FB 等で確認を

※返信はがきは概ね 3 週間前までに投函して下さい。

①北ハケ岳 10/1 締切 ②忘年会 10/15 締切

③湖西連峰 11/12 締切 ④初詣 12/17 締切

出欠にかかわらず、近況報告を兼ね必ず返信願います。

行事関係問合せ先

事務局: 松山 053-474-9267 (TEL&FAX)

tetorunamoko@yahoo.co.jp

事業担当: 鈴木 katsumi_hamakita@yahoo.co.jp

090-7698-1144 (携帯)

今後もC山行は概ね下記の日程で予定していきたいと思
います。春の山行案内は会報発行に間に合わないの
で、E-mail、HPやF Bなどで周知させていただきます。
興味のある方は事務局にご一報ください。希望者
には葉書等で連絡させていただきます。

春 C-1 4月か5月第3土日

秋 C-2 10月第3～4土日

冬 C-3 12月第1土曜日 湖西連峰

新春C-4 1/3 秋葉山初詣

○北登会関係計報(2021年夏以降事務局把握分)

情報無

○事務局から報告(北高部活動後援会関係ほか)

3/9 36期第1回役員会(5名)

4/1 年会費納入依頼、行事案内発送 465通

4/20 部活動後援会常任理事会1名、理事会2名

5/16 部活動後援会総会(欠席委任状)

部活動後援会懇親会(当面延期)

*北高部活動後援会にOB会費として

毎年20,000円を納めております。

(R3年度はコロナで部活動自粛となり集金無)

○事務局からお願い

北登会は若手会員交流活性化と北高山岳部との交流
と支援を重点的に行っています。

特に、2022年度から顧問が1名減の2名体制とな
ったことに危機感を感じています。OB会としても装
備の充実や技術支援だけでなく、大学生OBのサポ
ート参加費用を補助するため、今期2022年度予算
に「現役活動援助事業費」の科目を新設し、8万円
を計上しましたのでご承知おください。

また、若手会員交流活性化のため、家族で参加で
きる、キャンプやカヌー、スノーシュー体験などを
企画しています。ぜひ参加してみてください。

なお、お願いごとになりますが、現在北登会の会
費を納めていただいている会員は概ね100数名で
収入は30数万円です。一方、行事案内や会報は
450通ほど発送しており、通信費が8万円(支出
の25%)ほどかかっています。今後は会報発行や
事務連絡のデジタル化による経費削減も進めてい
きますが、当面は紙会報の発送は続けていきます。

ぜひ現役山岳部支援と会員交流の為、会費の納
入にご協力願います。

※宛先不明で会報が戻ってきてしまう事例が増
えています。転居等で会報送り先が変更になった
場合は事務局までご一報ください。

事務局アドレス: tetorunamoko@yahoo.co.jp

ともしび通信

2021年秋以降の北登会フェイスブックなどから
転載させて頂きました。26回生の山口さんが全
国各地の名山を登っています。うらやましです
ね。

山本寿彦(28回)、鈴木克巳(36回)

9/23 妙高山に赤倉スキー場側からゴンドラリフ
ト利用で登りましたが、なかなかの長丁場で疲
れました。



帰りに北八ヶ岳麦草峠白駒池を偵察してきました

鈴木克巳(36回)

10/8に福井県越前大野市の100名山荒島岳を登
ってきました。山頂から白山方面がよく見えました。



小荒島岳から荒島岳を望む

山口 靖(26回)

東北の日本百名山7座(蔵王山、鳥海山、月山、西
吾妻山、八幡平、岩手山、早池峰)を一人で登
って来た。若い頃には百名山を登るのは何となく
俗な感じがしていたが、この歳になると登山道
が整備されている百名山は、安全面からも登り
やすい。(2021.10.22投稿)



蔵王山の最高峰の熊野岳(1841m)



鳥海山の新山山頂 (2236 m)

1800-1801 年の噴火で形成された溶岩ドーム

山口 靖(26 回)

静岡県東部の愛鷹山と天城山を登ってきた。
どちらからも富士山が大きく見えた。愛鷹山登山口まで
名古屋から車で約 3 時間。(2021. 11. 22 投稿)



愛鷹山の越前岳 (1504 m) の登りから見た富士山

鈴木克巳(36 回)

雪が恋しくて恋しくて、秋葉山へ雪見トレッキング。
予想より雪は少なく、山頂で 10 cm ほど。軽ア
イゼンも不要でした。近場の山でも降雪があったら
行ってみると新鮮ですね。(2022. 2. 11 投稿)



雪が残る秋葉神社上社



引佐町三岳山の立須に行ってきました。スリリ
ングで抜群の展望。気晴らしに良いところですね。
(2022. 2. 12 投稿)

鈴木克巳 (36 回)

1/3 緊急企画 秋葉山初詣ハイキング! 9:00 下社前出発、
12:00 過ぎに上社到着、ランチ食べて 13:35 下山開始、
15:40 頃下社到着。残念ながらたい焼きなどの露天は撤収
中でした。(2022. 1. 3 投稿)



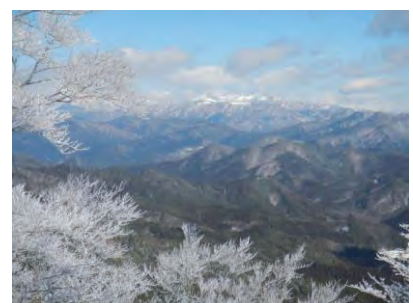
杉の大木の前で記念撮影



お天気にも恵まれ気持ちよくハイキングできました

鈴木克巳(36 回)

2/23 に茶臼山高原スキー場の南、天狗棚に登ってき
ました。茶臼山高原道路面の木 IC から登りました。
スノーシューを気軽に楽しめるフィールドでした。
今後北登会の 2 月の雪遊びメニューにしたいと思います。
(2022. 2. 27 投稿)



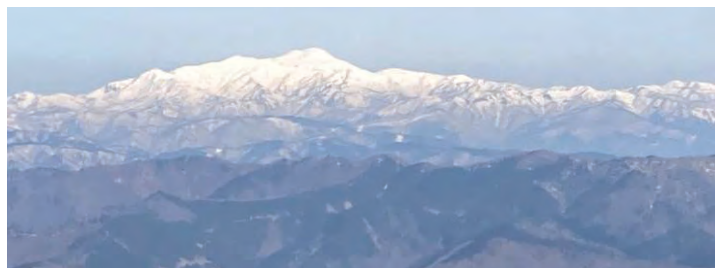
アイゼン不要スパツで OK 南ア最南部の山並

山口 靖(26 回)

今日は特に予定も無く天気が良かったので急遽、山登りに行ってきた。行き先は奥美濃（関市と郡上市の境界）の高賀山（こうかさん）標高 1224 m。



高賀山（こうかさん）の山頂。一等三角点がある。麓に高賀神社がある信仰の山で、一等三角点の山でもある。山頂からは、すこし春霞が懸かっていたが、素晴らしい大展望だった。白山が思ったより近く感じられ、御岳山、乗鞍岳、能郷白山、北アルプスの山々が良く見えた。



高賀山山頂から白山を望む

看板には劔岳が見えると書かれていたので、単眼鏡で観察したら、確かに薬師岳の左側に劔岳らしい尖った山が見えた（※）。さらに西には遠く伊吹山や鈴鹿の山々、東には中央アルプスと恵那山、その間には南アルプスらしい山々も望めたが、春霞のため山座同定はできなかった。

※【追記】2003 年 5 月に下呂市と高山市の境界の川上岳（かおれだけ）標高 1625 m に登っていた。高賀山、川上岳、北アルプスの薬師岳は、ほぼ一直線上にあり、高賀山からは、川上岳が薬師岳の手前に見えている。2003 年に川上岳山頂から北アルプス方向を撮った写真を調べてみたら、今日高賀山から見た北アルプスの山々と配列は同じで、薬師岳の左側に劔岳が写っていた。川上岳から北アルプスまでの距離は、高賀山からの約半分である。（2022. 3. 25 投稿）

山口 靖(26 回)

九州の 3 つの山を 2 泊 3 日で登って来た。主目的は、ずっと以前から登りたかった大崩山（おおくえやま 1643 m）。日本 200 名山の一つだが、100 名山に比べれば登山者はずっと少ない。登山口で会った鹿児島県の方のお話では、九州最難の山で、九州の岳人憧れの山でもあるそうだ。確かに梯子やロープを使って登る危険箇所が多く、登山道が分かりにくい箇所があってルートファインディングの技術は必須だ。私も何度か登山道を見失いそうになり、その都度、確実な箇所まで引き返してルートを探した。



久住山から見た中岳方向



大崩山の
花こう岩の
大岩壁



祖母山の山頂。一等三角点がある。

※この写真では普通の帽子だが、大崩山ではヘルメットを着用した。

大崩山に私が登りたかった理由は、この山が中新世の花こう岩で出来ていて、巨大カルデラの地下深部構造だと考えられていること。かつて地質調査所に勤めていたとき、同室の Mさんとカルデラの研究をしていたことがあった。大規模な珪長質カルデラの地下には花こう岩質マグマがあると考えられていたが、その頃、著名な火山学者の A 先生が「大崩山に行ってきて、この説の正しさを確信した」というような話をされた。このため、いつか自分の眼で大崩山の花こう岩を見たいと思っていた。期待通りに大崩山の花こう岩の大岩壁は素晴らしく、登山の対象としても大満足だった。

そのついでと言っては何だが、1 日目午後之久住山（1787 m）と 3 日目午前に登った祖母山（1756 m）は、100 名山だけあって登山道はしっかり整備されていて、登山者も多かった。久住山を下山した後、豊後大野市の普光寺の磨崖仏を見てきた。1976 年以来、46 年ぶりの再訪だった。今回、往復の航空券（名古屋～熊本のフジドリームエアラインズのシニア割）が 24,200 円、レンタカー＋ガソリンが 16,880 円、ホテル 2 泊で 8,100 円だったので、かなり割安で済んだ。（2022. 4. 10 投稿）

鶴見敏明(25 回) 花の山旅

愛知県民の森へシャクナゲを愛でる山旅に行ってきました。中尾根から上臈岩(じょうろういわ)ルート天候に恵まれて見ごろのシャクナゲの尾根歩きを楽しんで来ました。(2022. 4. 25 投稿)



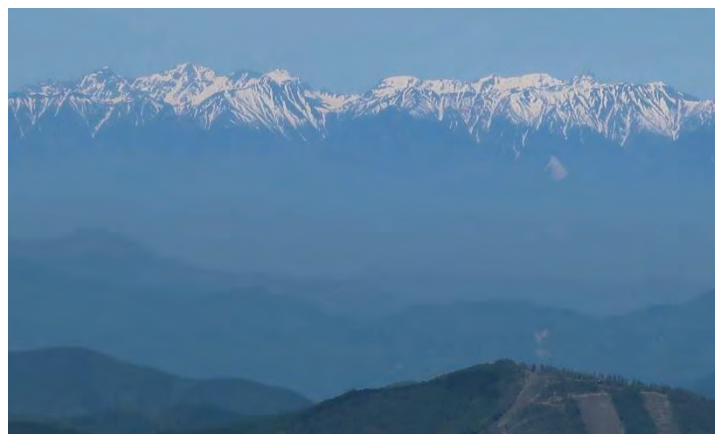
シャクナゲ満開



上臈岩でランチ



中四阿あたりから見た四阿山の山頂



四阿山山頂からの 槍・穂高連峰展望

鈴木克巳(36 回)

5/21 に愛知県設楽町にある愛知高原国定公園段戸裏谷「キララの森」を偵察してきました。以前鶴見 (25 回) さんが行ってきてF Bにアップしていたのを見て、ぜひ行きたいと思っていたスポットです。やっと実現しました。秋の紅葉や冬のスノーシュースポットに考えています。



小雨降る原始の森、とても神秘的な森でした。フカフカの土壌、朽ちた木や苔も含め生物多様性を感じる天然林でした。(2022. 5. 22 投稿)

山口 靖(26 回)

5 月 24 日 (火) は天気が良かったので、日本百名山の四阿山 (2354 m) に登ってきた。期待通りに北アルプスや浅間山などの大展望を楽しめた。まさに北アルプスの展望台だ。わが家から登山口まで車で 4 時間弱。(2022. 5. 25 投稿)



四阿山の山頂 (2354 m)

鈴木克巳(36 回)

6/12 は第 1 回親子カヌー体験を開催しました。4 家族 9 艇でアメンボ&河童体験をしてきました。(2022. 6. 12 投稿)



船明ダムの水面が風もなく鏡のようで神秘的でした

山本寿彦(28 回) 鈴木克巳(36 回)

6/18 に新緑の信越トレイルを楽しんできました。



朝霧の田園風景、神秘的な茶屋池、新緑のブナ林リフレッシュできました。来年はもう少し雪の残る時期にチャレンジしたいです。(2022. 6. 28 投稿)

山口 靖(26 回)

梅雨の晴れ間に長野・新潟県境の雨飾山(1963 m)と高妻山(2353 m)を登った。戸隠の民宿で1泊し、下山後は戸隠蕎麦を味わった。(2022. 6. 26 投稿)



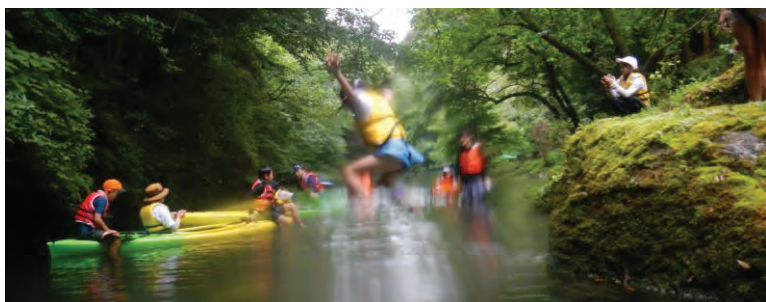
荒菅沢付近から見上げた雨飾山の山頂

鈴木克巳(36 回)

7/3 にカヌー体験②を無事開催。



副編集長 岩倉さんのパドル裁き



いつも最後は沢遊び

小雨が降りましたが暑くなく気持ちいい天気でした。ビジターも含め8家族25人参加でした。(2022. 7. 3 投稿)

山口靖 (26 回)

北海道の山を3つ登ってきた。

トムラウシ山(2141 m)は、登頂に往復約10時間かかったが、高山植物のお花畑や雪渓・溪流などまさに”庭園”のような景観だった。また、幸運にも(?)登りの途中でヒグマの親子に遭遇した。



トムラウシ公園付近から見たトムラウシ山 対照的に活火山の十勝岳(2077 m)は、草木はなく火山岩/灰で覆われていて(行ったことはないが)火星か月の表面のようだった。



十勝岳の山頂を望む



大雪山のロープウェイ姿見駅の先の遊歩道から旭岳を望む

大雪山(旭岳; 2290 m)は、登り始めはお花畑の中、途中から火山岩の斜面で、他の2つの山をミックスしたよう。かなり前(出発75日以前)に安い航空券を購入したので天候は運任せだったが、幸運にも、まあまあの天気恵まれ、三山とも登ることができた。(2022. 7. 9 投稿)

杉山(旧姓土本)由紀子(49 回)

この夏、SNS を通じて案内いただき、初めて娘(9 歳)と一緒にカヌーを体験し、楽しい夏の思い出となりました！



カヌーって子供でも大丈夫かな？と最初心配でしたが、思いがけず、娘の上達が早くて、スイスイ〜とアメンボのように自由自在に動き回る娘の背中を見ながら、その成長を嬉しく感じました。私自身としては、船明ダム湖の水面上から見上げる鮮やかな山々の景色、キラキラ光る水面、くっきりきりとした夏空に、自然を感じながらのんびりできたのがすごくよかったです！

素敵な夏の思い出作りにカヌーはいかがですか？パドル一本で、自由自在に行きたいところに進めるワクワク感も魅力の一つ。久々に、冒険心がくすぐられました。

鈴木克巳さんを始め、北登会 OB や参加者の皆様、色々サポートしていただき、ありがとうございました。（2022. 8. 12 投稿）

鈴木克巳(36 回) 初めての立山室堂

観光コース鉄板でしたが十分アルペンムード堪能。これで日本三大高所温泉クリア

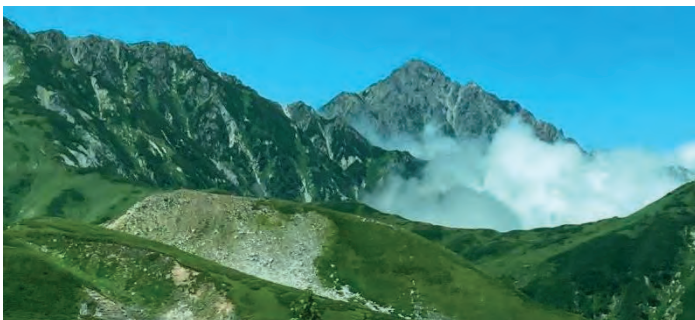
1 位：みくりが池温泉 日本最高所天然温泉 2, 430m

5 位：本沢温泉 日本最高所野天風呂 2, 150m

8 位：白馬鑓温泉 日本最高所露天風呂 2, 050m

8/19 は貴重な好天気！往復 6, 000 円の投資でしたが、それ以上の絶景が待っていました。日本最高所のみくりが池温泉も堪能し、みどり池も巡ってきました。

翌日は雨模様の中八ヶ岳白駒池にて苔ハイキングをしてきました。（2022. 8. 29 投稿）



室堂手前でバスの車窓から剣岳がよく見えました



山田いづみ(50 回)

会社が長期勤務の特別休暇くれたので、2 年前にコロナでキャンセルしたスイス夏山合宿にやってきました。



アレッチ氷河を見に行った Bettmeralp では微妙だったお天気も今回本命の Saas-Almagell に来て回復。

Kreuzboden から Saas-Almagell に戻るまでの下りトラバースは景色が素晴らしかったんだけど、ほとんどの観光客はケーブルカー使っているであろう Saas-Grund から Kreuzboden までの登りルートが地味に気に入りました。

森の中にはガゼルみたいな動物がいたり、Trift からの森を抜けて開けたところには、マーモットもちょこちょこ出てきたり。急登もなくすごく歩きやすいのに誰もいなくて、こういうのもまた贅沢。（2022. 8. 30 投稿）

今日は Mattmark ダムからイタリア国境の Monte Moro Pass 峠まで行ってみました。

天気予報は曇り時々晴れだったのである程度覚悟してたけど、2800 ちょいの峠はガスりまくってて、イタリア側にわずかに見えたケーブルカー乗り場？の屋根に Ristorante と書いてあって国境実感。

上りはガスった岩場を目印探しつつ足場を探して結果的にやや疲れたものの、総じて素晴らしいルート。ダム入り口から登山口まではただの散歩道、登山口からは谷を歩く道だから傾斜もなくすごく歩きやすい。谷から峠への道は岩場でこそあれ道幅も申し分なく、高所恐怖症の私が「下を見てはいけない」と念じるところがない歩きやすさ。



寒さに耐えられず峠から戻る頃には雲もやや晴れ、眼下に見える景色はなかなかで、青い白濁色のダム湖は鮮やかで疲れを癒します。

予備日の天気良ければ、是非ともおかわりしたいルートです。（2022.9.3 投稿）

山口 靖(26 回)

7 月上旬以来、天候と日程の都合が合わずに山を登っていなかったため、今年の夏山の締めくくりにどこか行きたいと思っていた。しかし、東北以南の日本列島は秋雨前線と台風の影響で天気が悪く、どうしようと悩んでいたら、北海道の道東は本州と違って天気が良さそうなのことが分かった。このため、先週金曜日に道東行きを急遽決め、割引航空券をギリギリで購入し、安い宿とレンタカーを予約した。5 日午後の便で名古屋（中部）から女満別へ飛び、日本百名山の 3 つの山を登って 8 日夕方の便で帰ってきた。期待通りに 6 日は雲りで、6 日夜～7 日早朝に台風は沿海州に抜け、7 日と 8 日の道東は台風一過の快晴だった。



羅臼平から見た羅臼岳



羅臼岳山頂

今回登った 3 つの山は、それぞれ特徴があって面白かった。斜里岳（1547 m）の登山道では沢の徒渉を繰り返し、さらに連続する滝の脇を登るようになっていて、沢登りの気分を味わえた。盛夏の暑い時期だったらもっと爽快だったろう。羅臼岳（1661 m）には、知床の原始の自然が残っていた。

麓の道路をヒグマが横切るのを見たし、エゾシカ、キタキツネ、シマリスを見かけた。

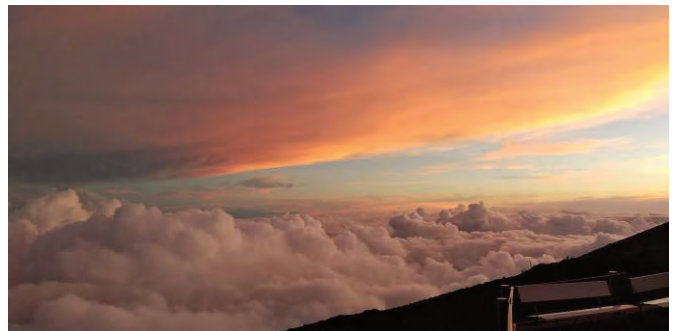
山上からのオホーツク海の展望も素晴らしかった。雌阿寒岳（1499 m）は生きている火山で、大きな噴火口や立ち上る噴気、端正な阿寒富士など火山の博物館といった感じだ。山麓の原生林やオンネトウの雰囲気も、魅力的だった。（2022.9.9 投稿）

岩倉万友美(48 回)

今年の夏休みは思い切り！アウトドア！あとは空を飛ぶくらい？



富士山五合目初日は最高のお天気でした



富士山六合目からの夕焼け



西表島シーカヤック

サンゴが透けて見えるほどの透明度！



沖縄本島では初めての SUP にも挑戦

北高山岳部サポート情報

北登会では2人の顧問で1-2年生40名弱の大所帯になった北高山岳部支援を重点的に取り組んでいます。

装備の充実や山行、合宿のサポート参加、差入など重点的に行っています。サポート参加してくれる大学生OBも支援しています。

新潟県妙高高原スキー合宿 2021.12.22-24

池の平スキー場にて初心者レッスンをはじめスキー板、ビンディング調整などサービスマン、転倒者のお助けマンと大忙しでした。天気に恵まれ背後に妙高山、前方に斑尾山や野尻湖がよく見えました。鈴木(36回)1泊2日でサポート参加



湖西連峰歩荷競争 2022.1.15(土)

北高山岳部が競技力向上のため、歩荷競走で入山します。梅田公園から神石山を經由して多米峠を往復しますので各チェックポイントで保安要員担当します。協力をお願いします。最速は1:50 アンカーは3:00

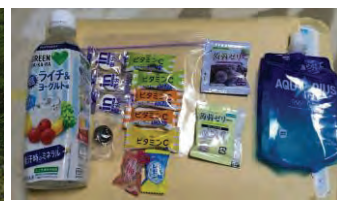


6月月例山行 宇連山 2022.6.11-12

テント生活、体力向上を目的に実施。保護者3名も土曜日日帰りで活動状況見学。サポート参加OBは日帰り鈴木(36回)、フル竹林(73回)



シヤクナゲ尾根を登る生徒たち



熱中症対策差入れ

●山岳技術図書貸与 2022.7.20

北校を訪問し、登山技術図書「山のリスクマネジメント」「Q&A 登山の基本」を男女用に各2冊貸与しました。



7月月例山行 宇連山 2022.7.22-23

夏山合宿に向けた歩荷宿泊訓練を目的に実施。サポート参加大学生OBはフル竹林(73回)鈴木(36回)は体調不良のため、北高でお見送り女子新入部員5名のうち2名が退部予定と事で夏山合宿経験前の退部は残念でした。

猛暑の中の登山、軽度の熱中症に2名ほどなったようですが、全員で対応して、時間がかかっても無事行動できたようです。



生徒個々には水分塩分補給用品、医療担当に夏山合宿にも装備するよう応急処置用品を差入れ

●夏山合宿サポート

今年の夏山合宿は8/7~8/11北アルプス雲の平。顧問2名で生徒27名の長丁場合宿。大学生OB5名がフルサポート参加してくれました。北高部活動後援会から外部コーチとして2名分の旅費日当が支給されましたので5名で分配し、北登会から謝礼として5000円/人の図書券を贈らせていただきました。

参加者には塩分補給タブレットやアミノ酸サプリなど熱中症、体力維持対策食品を差入れしました。73回生大学生OB 加藤、木村、竹林、野口、森下



第36期会計報告

(2021年4月1日～2022年3月31日)

収入の部

入会金	0
年会費	321,000
雑収入	127
前期繰越金	587,845
収入合計	908,972

支出の部

総会費	3,575
会議費	0
通信費	88,672
事務備品費	20,642
渉外費	0
会報発行費	23,330
その他事業費	112,841
山岳用具購入費	10,800
遭難対策基金積立	0
予備費	0
支出合計	259,860
次期繰越金	649,112

遭難対策基金積立累計	3,420,000
------------	-----------

第36期事業報告 (2021年度)

- 1. 現役生との交流、サポート
部活動後援会 (会費未納)
登山技術図書貸与
月例山行夏山合宿等サポート、差入れ
スキー合宿 12/22-23 (妙高) 技術サポート 1 名
歩荷競走保安要員 1/15 (湖西連峰) 2 名
- 2. 会報の発行 夏号
夏号 600 部印刷 (9/13 発送 464 通+北高 80 部)
- 3. C山行
C33-1 2021.5.30 森町本宮山 7 名参加
C33-2 2021.10.24 大川入山 10 名参加
C33-3 2021.12.4 湖西連峰 20 名参加
- 4. 家族園遊会
2021.11.6 (土) 三ヶ日町続都築 28 名参加
- 5. 総会
2021.2.5 (土) コロナ中止
- 6. 遭難対策基金積立
0 円 累計 3,420,000 円

第37期北登会役員 (2022年度)

顧問	山崎正敏 (17)
会長	高林 宏 (25)
副会長	山本寿彦 (28) 鈴木克巳 (36)
会計監事	阿部邦彦 (12) 山崎正敏 (17)
会計	松山英達 (20) 事務局兼務
常任幹事	大谷一雄(21)、鶴見敏明 (25)、 深谷直久(41)、北嶋敏明(43)、 鈴木貴晴(48)、大東たかし(50)
HP管理	鈴木貴晴(48)
会報編集	鈴木克巳(36)、岩倉万友美(48)

第37期事業計画 (2022年度)

- 1. 現役生との交流、サポート
部活動後援会
月例山行、夏山・スキー合宿支援 (差入サポート参加) ほか
山岳技術書、医薬品等寄贈
12/10 湖西連峰歩荷競走保安要員派遣
- 2. 会報の発行
秋号 9 月上旬発行 (600 部印刷) 会員+生徒等へ配布
- 3. C山行
C34-1 5/15(日)御在所岳 1212m(三重県)
C34-2 10/16 (日) 縞枯山 2403m (長野県北八ヶ岳)
C34-3 12/3(土)湖西連峰 (梅田峠～大岩コースなど)
C34-4 1/3 (火) 秋葉山初詣
- 4. 家族園遊会
6/4 (土) 須山建設海の家 (三ヶ日町都筑 926)
- 5. 若手会員交流イベント(随時開催)
キャンプ (焚き火)、カヌー、沢遊び、サイクリング、
スキー、スノーシュートレッキングなど各種体験
- 6. 忘年会キャンプ
11/5(土) 須山建設海の家 (三ヶ日町都筑 926)
- 7. 遭難対策基金積立
積立累計金額を維持

編集後記 会報編集副担当 岩倉万友美 (48回)

48 回卒の岩倉万友美と申します。この度、北登会
会報副編集長に就任致しました。私が現役部員 1 年生
のころは女子部員が 2 名でしたが、今では女子部員も
増え、山岳部の活動も更に充実しているようで嬉しい
です。
紙面を通じて、現役部員の皆さんと OBOG の皆さん
との交流の場となるよう今後も鋭意作成して参ります
ので、どうぞよろしくお願いいたします。
今夏は小学 6 年生アウトドア好きの息子と共に、
富士登山チャレンジ、西表島・沖縄本島カヤック
SUP キャンプを体験してきました。
富士登山は、激しい雷のため登頂は叶いませんで
したが、また来年息子とチャレンジする予定です。
山だけでなく、最近はシーカヤックにも親しんで
います。登山もカヤックも、自分の手足を使って進んで
いくというのが魅力だと感じています。ゆっくりと
進むことで見えてくる世界がありますね。

編集発行 北登会事務局 松山 (20 回)
〒432-8004 浜松市中区文丘町 29-29
TEL・FAX 053-474-9267
e-mail tetorunamoko@yahoo.co.jp
2022 年 9 月 600 部発行 通算第 44 号